



定期テストを終えて



国語

定期テストの平均点は前回よりも上がりました。テスト中の様子を見ても、時間内に解き終え、見直しまでできている人が増え、日頃の学習の成果が表れていました。

一方で、文法や漢字の読み書きについては、夏休み中に計画的に学習に取り組んだ人とそうでない人との差が見られました。後期中間テストの範囲には漢字ワーク P42～59 が含まれます。早めに学習を進め、繰り返し復習してほしいと思います。

数学

今回の範囲は文字式がメインでしたが、どうでしたか。単純な計算の問題や、 $\times$ や $\div$ の省略はよくできていました。しかし、() がある問題や、指数を使う問題で少し間違えが目立ちました。次回の方程式や関数の範囲でも使う知識なので、テストをやりっぱなしにせず、しっかり復習しましょう。数学は知識の積み重ねが重要です。一度ミスしたところは次に同じミスをしないように勉強を進めてください。文章題は練習量です。様々なパターンを経験し、使える知識を増やしてください。

社会

「少なくともお盆までに夏休みの宿題を終わらせ、お盆以降は定期テストの対策をしましょう」。これは、夏休みに入るときに先生がみなさんにアドバイスした内容です。夏休み中、みなさんはどれくらい学習に向き合うことができたでしょうか。今回のテストの平均点は55.4点でした。地理的分野については、世界の諸地域の気候や特徴をしっかりと学習できていました。歴史については、記述問題はよくできていたものの、一問一答式の知識を問う問題の正答率が低かったです。次の定期テストは歴史がメインになります。勉強時間を確保し、計画的に学習をすすめましょう。

理科

動物と物質の単元のテストでした。夏休みが間に入ったことで、語句を覚えることの部分では学習の差が見られました。密度の計算に苦戦した人もいました。これから学習が進んでいく物質の分野では、実験を中心に物質の性質を調べていきます。実験に積極的に参加する中で操作を確認することや学習内容を使って結果から考察していく力は授業中に高めることができます。その力を維持できるように日々の授業の復習を継続してください。

英語

テストお疲れさまでした。夏休み明けすぐということもあり、大変だったかと思います。各々、感じることはあると思いますが、前回のテストよりもケアレスミスが減ったり、「大切なポイント」と説明した部分の出来が良かったり、良い傾向がありました。次のテストは11月です。あまり時間がない中ですが、復習をしっかりすることを習慣化し、得点が上がるように頑張ってください。

桜陵祭 こんな思いを込めて歌います！

10月21日（水）に行われる桜陵祭（合唱コンクール）に向けて、各クラス合唱練習に励んでいます。
各クラスの歌に込める思いを紹介します。

1組 吉田 鼓

曲名	大切なもの	指揮者	伴奏者
----	-------	-----	-----

私たちは仲間への感謝と未来への希望を胸に「大切なもの」を歌います。聞いてくださる方への心に届くように、一人一人が最高の笑顔で一生懸命、1音1音を丁寧に、そして全力を尽くして歌います。私たちの歌声と強い絆を体育館いっぱいに響かせます。「大切なもの」の歌詞にあるように、人との繋がりや共に過ごした時間の尊さを私たちの声で歌います。



2組 杉山 琴音

曲名	旅立ちの時～Asian Dream Song～	指揮者	伴奏者
----	-------------------------	-----	-----



旅立ちの時の作曲者である久石譲さんは、「人生のメリーゴーランド」や「アシタカとサン」などのジブリ作品の楽曲を手掛ける有名な作曲家です。今回歌う旅立ちの時という曲も、ジブリらしい幻想的な雰囲気をイメージさせる為、「故郷を離れ、自分の夢のために旅立つ」というような物語性を意識して歌います。一番の歌詞と二番の歌詞の時の流れや出来事に注目して聞いてもらえるように歌います。

3組 菊地 滯

曲	ハートのアンテナ	指揮者	伴奏者
---	----------	-----	-----

「ハートのアンテナ」は、自分の心を開き、感情や思いに敏感に反応する心を表した曲です。歌詞では、自分の生き方や感情に向き合い、未来に向かって歩いていく姿勢を描いています。私たち3組の明るく元気な歌声で、聴いてくださる人に、笑顔と感動を届けたいです。一人一人が自信をもって歌い、仲間と声を合わせることで私たちらしい最高の桜陵祭を作り上げたいと思います。最後まで全力で、楽しく歌います。



4組 小川 翼

曲	HEIWA の鐘	指揮者	伴奏者
---	----------	-----	-----

私たちは桜陵祭に向けて、「HEIWA の鐘」の歌詞に込められたメッセージを理解し、歌に生かせるように、練習しています。また語りかけるようなパートからさびにかけて、どんどん盛り上がるような歌い方や一人一人の歌声が一つになり、きれいな音色になるような迫力ある歌声を本番でも出せるように、心を込めて歌います。

